

中学生議会

質問 答弁

Q & A

Q₂ 「自転車の日」の設定によるイベントの実施やポスターづくりを通して、自転車利用に関する機運の醸成を図ってはでしょうか。

A 市民のイベント参加や自転車道の環境整備等に関わりを持つことは、地域への愛着や生きがいにもつながります。提言を含め、イベント内容やボランティア参加等、効果的で継続・発展していく方法を検討していきます。また、小中学生にポスターづくりに関わっていただくなど、情報発信と市民参画を組み合わせた方針を検討していきます。市では、サイクリングコースを中心とした交通環境整備を進めていますので、整備が完了した際はご活用ください。

Q₄ 安曇野の日常的な活動や歴史的・文化的財産を観光資源として活用するとともに、SNSを駆使して情報発信してはでしょうか。

A 提言の通り、市民との交流や体験を重要な観光要素として、安曇野ならではのメニューを提供していきたいと思えます。文化財の活用に関しては関係の皆さんと知恵を出し合い、文化財それぞれにあった保存管理や活用計画を検討していきます。進展が速い情報分野において、若い世代により効果的なSNSを選択し、機を捉えて発信するとともに、多様化する旅行形態にも対応できるよう研究していきます。

Q₆ 「ここしかない」製品の開発や文化会館の設立などにより明科地域の商店街の活性化につなげてはでしょうか。

A 市では穂高商業高校と南安曇農業高校と連携協定を結んでおり、「ここしかない製品」を両校の特色のなかから創り出し、地域に活用できるよう、事業の推進を図っていきます。文化会館の建設は検討していませんが、明科駅前の歩道整備事業が事業化となり、駅前広場や周辺道路、案内看板などの整備が進められており、空き店舗の有効活用や駅利用促進事業などの地域活性化に向けた取り組みを行っています。

Q₁ 高齢者の学校活動への参加や学校の空き教室の有効活用で、高齢者と若い世代が交流できる仕組みをつくってはでしょうか。

A 市では「健康長寿のまちづくり」を重点施策に掲げています。市でも、人と交流することは高齢者が明るく健康に生活を送るうえで大切なことであると考えています。ACS（安曇野市コミュニティスクール）など、既存の活動へ高齢者の皆さんに参加いただけるよう、空き教室の利活用を含め、実情に合った仕組みの改善を研究していきます。

Q₃ 市民等にリンゴ栽培に1年間関わってもらい、関心を高めるとともに、感謝祭等により農家と参加者の絆を深めてはでしょうか。

A 年間を通じての作業参加は、かえって参加を躊躇（ちゆうちよ）してしまう可能性があります。一度の参加でも貴重な体験になると思っていますので、農家民宿事業の中で市内の人を含め、体験の機会が設けられるように検討していきたいと思えます。感謝祭は参加者が企画した方が、より実りがあると考えます。同世代の呼び掛けであれば、興味を持つ人も増えると思えます。自主的な感謝祭が具体化される場合、そのための情報発信等は市が中心となって行っていきたいと思えます。

Q₅ 「安曇野ネットルール」の作成や講演会・代表者会議などを通して、インターネットやSNS利用の理解を深めてはでしょうか。

A 市内でもさまざまなネットトラブルが報告されています。提案のルールを参考に、子どもたちが主体的に順守しやすいルールを定められるよう、意見を集約し、市としてのネットルールの作成を検討していきます。また、現在も地域や各学校で講演会を開催していますが、課題解決やトラブル回避の具体的な操作方法についてもプログラムに取り入れていただくよう、情報発信を進めていきます。

Q₇ 子ども向け防災マップの作成に関わる指導や避難所・避難場所の区別が分かる看板等の設置により、防災意識を高めてはでしょうか。

A 避難所・避難場所の看板は、JIS規格により統一されているため、変更はできません。ただし、避難所と避難場所の開設目的には大きな違いがあるため、周知を進めていきたいと思えます。子ども向け防災マップの作成には、危険個所の知識として得るとともに、マップづくりを通じた地域の自主防災意識の高まりも期待されます。市としても指導や協力は惜しみませんので、中学生目線のマップ作成に取り組んでいただきたいと思います。



第7回 中学生議会 開催

未来を担う中学生の皆さんが、市の現状や課題を学び、まちづくりへの提言をまとめました。中学生議員が考えた提言の一部を紹介します。問学校教育課教育指導室 ☎71・2461 ☎71・2338



中学生議員への課題

「中学生に考えてほしいこと」

提案内容および議会参加者（敬称略・発言順）

- Q1. 高齢者の健康増進と福祉の向上を図る高齢者の外出機会を増やす工夫…白井凜華・小澤朱音・望月優希（堀金中）
- Q2. より多くの市民や観光客が自転車利用を進めるための工夫、まちづくり…西村篤郎・望月方亜矢・上出勇飛（豊科北中）
- Q3. 農作物（りんごなど）生産者や栽培面積増加のための工夫…青木花衣・重百武・渡邊 壺聖（穂高東中）
- Q4. 安曇野の若い人にとって魅力ある観光地にするための工夫…高山咲穂・西牧莉沙・山口真七音（豊科南中）
- Q5. ネット社会を安心して生きていくための市の取り組みの工夫…松澤朋花・丸山莉央・田守彪馬（三郷中）
- Q6. 大型店にも負けない賑わいのある商店街を復活させる工夫…竹田季美花・佐藤玄輝・小島悠月（明科中）
- Q7. 土砂災害警戒区域の特定に配慮した警戒避難体制や自主避難の仕組みをどう整え、防災意識高揚や自主防災力の向上を図っていく工夫…横内桜都弥・茂原実柚・桑嶋由珠（穂高西中）

中学生の柔軟で斬新なアイデアを市政に

市 では11月4日、市役所議場で第7回中学生議会を開催しました。当日は、保護者や市民の皆さんが傍聴する中、市内7校の中学生2年生21人が宮澤市長や市の幹部職員に提言型の質問をしました。中学生議会は、市の将来を担う中学生の柔軟で斬新な発想やアイデアを市政に生かすことや、自分たちが暮らす地域への関心を高めてもらうことなどを目的に、今回で7回目を迎えました。これまで

中学生で得た知識をまちづくりに生かす

中 学生たちは市政全般を学ぶ学習会を5回から7回行いました。市の担当者から市の仕事や現状などについて説明を受けたほか、アンケートなどを実施し、理解を深めました。それらを基に、今後の市政に対する提案型質問を行いました。議会当日の議事録は、市HPに掲載する予定です。